

服装・身装文化データベース—近代日本の身装画像データベースの構築とその研究

学芸学部 国文学科 高橋 晴子

平成22年度には、「近代日本の身装画像データベース」を構築するための基礎的研究を行った。本画像データベースを、〈服装・身装文化データベース〉のサブデータベースのひとつとして位置付け、約2万件の画像データからなるデジタルアーカイブをウェブ上に実現するのが最終目的である。

近代(1868~1945)は、我が国の衣生活において、和装から洋装に移行する重要な時期であるにもかかわらず、研究および研究ツールが欠落している。この欠落を埋めるために、本画像データベースを構築するものである。さらには、本画像データベースと、〈服装・身装文化データベース〉のサブデータベースである《近代日本の身装電子年表》および《身装文献データベース》(国立民族学博物館のウェブサイトで公開中)とのリンクを張り、連携させることによって、必要とする情報を同時に入手できる、すなわち統合検索が可能なデジタルアーカイブの構築を目指している。とくに、《近代日本の身装電子年表》と本画像データベースは補完の関係にあり、本画像データベースが構築されることによって、近代日本の身装の態様を、文字・画像の両面から具体的かつ視覚的に把握できることとなる。

本画像データベースが対象する画像はすべて同時代資料であり、新聞・雑誌記事中の当時の世相を反映している挿絵、新聞・雑誌小説挿絵、一枚ものの写真、図書の図版(明治期の絵双紙を含む)などである。このうち、約500枚の新聞連載小説挿絵を今回の対象として、下記の研究を行った。なお、連載小説挿絵の信憑性については、すでに検証済みである(高橋晴子「近代日本の新聞連載小説挿絵:身装情報としての評価」『アート・ドキュメンテーション研究』15号, 2008, pp. 1-18)。

- 1) 画像のデジタル化を行い、18項目のメタデータを確定した。その内容は、1) 対象となる資料の書誌情報、2) 資料の種類、3) 描かれた内容の‘時’と‘場所’、4) 身装の部分(頭部、上半身など)、5) 身装画像概念コード(5)-1 景観、5)-2 からだの問題と着装態様、5)-3 アイテム一般、の3つの部門で構成されている)、6) フリーキーワード、7) MCDコメントに分類することができる。
- 2) 選択した約500枚の画像にメタデータを付与した。メタデータのうち、統制された検索語、いわゆるシソーラスにあたる上記の「身装画像概念コード」の3つの部門では、すでに体系化した文化変容に関する約140のキーワードを応用している。「MCDコメント」の項目では、登場人物の着ている衣服そのもの、着装とまわりの情景との関係、および着装と着装している人の感情との関係などについて解説している。また必要に応じて、当該期間の衣生活全般にかかわる事柄までをも言及している。
- 3) メタデータを付与していく過程で、年代不明の写真の一部については、髪型による年代判定が有効に働くのではないかと考え、1885年頃に現れる束髪から、耳隠し、洋髪などを経て、内巻き・アップにいたるまでの約60年間を6区分した。今後は、この判定基準を用いて、実際に写真を対象として検証していく必要がある。

以上のように、研究期間中に、画像のメタデータ付与についての方向性を決めることができ、システム構築の目処もついた。出来るかぎり早期に2,000枚の画像データを作成し、メタデータを再度検証し、プロトタイプシステムの研究と開発に取りかかりたい。